

～アメリカ高校研修旅行感想文～

3年 寺田聡子

このアメリカ研修に行く時、私は複雑な気持ちでした。私は部活の試合で予選通過を果たしたのですが、その本戦がアメリカ研修中にあったのです。でも、今行ってよかったとしか言いようがないほど満足しています。今しかできない体験、そして何よりも人とのつながりが一気に増えたように感じられます。たくさんの人と触れ合いながら、日本との文化の違いや考え方の違いを肌で感じる事ができました。初日は、日本に帰りたかって正直思いました。でも、その気持ちは日が経つにつれてなくなっていき、最終日は日本に帰りたくないって思うほどになっていました。たくさんの友達ができるたびに、毎日が楽しく面白くなっていきました。積極性も大切ですが、何より楽しもうって気持ちが大切だと思います。そういう気持ちによって、自然に積極性が出てくるんだと思いました。この体験は、私の一生の思い出であり、今回出会った人たちは私の一生の宝ものです。

2年 畠山享子

アメリカ研修に参加できて本当によかった。キャミアックもフォレストも本当に楽しかった。ホストが同世代ということもあって話があつてたくさんのお話を話せて仲良くなれたし、アメリカのことをたくさん知れた。一番びっくりしたことが走っている人を見ないことで車を待たせていても歩くこと…さすがアメリカだなと思った。とくにキャミアックでは滞在期間が長かったせいかホストも何も関係なくみんながみんな仲良くなれて一生の思い出をつくる事ができたし、なによりも一生の友達をつくる事ができてよかった。これからもずっと連絡を取り合っていきたいと思うし来年の夏休みに日本に来るらしいのでとても楽しみだ！この経験をいかしてこれからの生活をよりよいものにしていきたい。またアメリカの文化などを今宮高校のみんなに教えてあげたい。最後にたくさんの人にお世話になったので、この研修に関わってくれた人みんなに感謝しなければならないと思う。ありがとうございました。

3年 飯田彩佳

めっちゃ楽しかった！！！！ほんまに、もう一生アメリカでいたいくらい。

一番楽しかったのは、学校でたくさんの友達とあんな短い間やったのにすごく仲良くなれたこと。学校のクラスメート以上かも（笑）

キャミアックのホストファミリージョナサンは、ガキ使がめっちゃ好きで、大阪弁'なんでやねん'、'何でぼく〜'とか、やたらと大阪弁使っておもしろい^^

日本語を喋れる人が多くって、日本語で、英語で、どっちも喋ったりしてみんなでたくさん遊んだことが、本間に楽しかった。

今、日本帰ってきてからも、Facebook や Skype でテレビ電話、チャットをしたりして、つながってる。

来年日本にくるかもしれないし、また会える気がするから今はあんまり離れて悲しい気持ちがないかな
^^

全然英語が完璧ではないけど、アメリカでたくさんの人と会えたり、なんとなくでも喋れて、仲良くなれたことが、とてもいい経験、いい思い出になりました。

I love America!!!

2年 梶谷麻耶

今回、アメリカ語学研修に参加しようと思った動機は二つありました。

まず一つ、英語が世界共通語になりつつある現代の社会において、“書く英語”よりも“話す英語”を身につけたかったからです。

学校の英語の定期テストで良い点を取った人が、いざその英語を用いて会話するとなると、必ずしも上手に話せるというわけではないということは、多くの方がご存じだと思います。

私が学びたいのは、学校で教わる英語の他に、将来社会に出た時、もしも英語が必要となった際にその場で発揮できる力なのです。

その為には、英語を話す練習をしなければなりません、現在の私の日常において英語で話す機会なんてそうそうありません。

そんな時に、語学研修の話が上がり、これだと思い参加を決意しました。

もう一つは、中学校時代にも同じ目的でオーストラリアに語学研修に行った時、英語歴が浅かったせいもありますが、満足に英語が喋れずに伝えたいことも伝えきれないまま、その研修が終わってしまったことでした。

その時のリベンジも兼ねての参加だったのです。

参加して改めて思ったことは、日本人は不完全ながら英語を無意識に理解することが出来るからこそ、厄介だということです。

日本には外来語が溢れています。

そして、その多くは英語をカタカナに直したもので、日本人はそれを日常的に使っています。

しかしそれはあくまで外来語の日本語であって、英語ではありません。

初めの頃、私はその外来語を英語と解釈し、そのまま使っていました。

しかし、外来語と英語の一番の違いは発音です。

少しでも発音が違えば、伝わることはありません。

その私が知っている外来語の分を差し引けば、私は英語に関して無知に近いことに気が付きました。

雰囲気だけで外来語を英語のような発音に直すことは出来ます。しかしその発音に確信はありませんでした。

どこかで「自分はある程度の英語を知っているから、なんとかなるだろう」と思っていた自分がいましたが、それは大きな間違いです。

生きた英語というものは、アメリカで私に厳しい現実を突きつけました。

この事実気がついた時点で、渡米して数日しか経っていませんでした。

残りの期間の長さ、慣れないアメリカの環境に、気が遠くなりましたが、このままではアメリカに来た意味がないとも思いました。

語学研修は楽しいものですが、大変疲れるものでもあります。

この与えられた期間の中で、何をどのようにして自分の身につければいいのかを、深く考えさせられました。

助手席と運転席の間で交わされるネイティブの会話を、後部座席で黙って聞いているだけでは身につかないし、だからと言って話の内容が分かるのかと問われると、分かったり分からなかったりです。

単語を聞き取っては、おおよその検討をつけて、展開されている内容を把握するばかりの日々が続きました。

そのせいか、自分から口を開く事が少なくなりつつありました。

時折、私にも話がふられることもありました。

その時は大概、良い言い回しが見つければ難なく答えられましたが、やはりスムーズには出来ませんでした。

少し考える時間があるのです。

頭で文章を考えて、それを読み上げているような状態でした。

しかし、これを考えると、日本に居た頃となんら変わりはありませんでした。

どうすればいいのか、と考えながら、少しずつアメリカのネイティブにも慣れてきて、そしていつの間にか、ある程度自分からも口をはさめるようになっていました。

この間何が起こったのだろう、と考えると、私が思うに、やはり自分から話しかけていたということでしょうか。

沈黙が嫌いな私は、会話がなくなるとすぐに、新たな話題を持ち出します。

不完全な英語ではありましたが、その都度おかしい言い回しをホストに教えてもらい訂正したりしていると、次の日、同じシーンに出くわした時にはちゃんと話せるようになっていたのです。

その時、微かながらではありましたが進歩を感じることができました。

今回の研修は約2週間と、留学としては短い、私が思うには長い期間でした。

そのせいか、途中で英語が分からなくて心が折れそうになり弱音を吐いたり、すぐにホームシックになったりと、周りの方々には大変ご迷惑をおかけしました。

しかし、出国前にも言っていたように、アメリカでの時間は大変意義のあるものとなったことを、私は改めて(特に英語の授業中などに)実感しています。

そして勿論ですが、ホストファミリーの方や、アメリカの学校の友人、アメリカ語学研修に尽力して下さった今宮高校の先生、応援してくれた家族、その他大勢の関わってくださった皆様には、感謝しています。

おかげで私は英語だけではなく、国境を越えた人との繋がりを持つことが出来ました。

これは素晴らしいことだと、本当に思います。

この語学研修での貴重な体験は、あらゆる形で未来の私にも繋がっていくことでしょう。

2年 金沢里花子

アメリカにいて、まず、1番ショックだったのは英語が全然出てこないこと。今まで小4から英会話に行っていてそこそこできるほうやと思ってたけど、文法なんかまるで出てなくて、単語を並べるだけの会話しかできなかったことが1番ショックでした。これを機会に英語への意欲がすごい高まりました。

あと、行ってほんとに良かったと思うことは、アメリカの人たちの“優しさ”に触れられたことです。HostFamily はもちろん、学校の先生・生徒、店員さんの何気ない一言や電車で会った男の人とのほんの少しの会話。みんなが優しくて、あったかくて。2つ目のHostのZinniaが「日本人は冷たい」って言っているのを聞いて、そういわれるのも分かる気がしました。国のちがいてこんなところにもあるんだなって、すごく勉強になりました。

アメリカのみなさん、そして、今宮高校のみなさん、ありがとうございました。

2年 末廣春奈

私は、このアメリカ研修を通してたくさんのことを学び、たくさん宝物を得ることができました。一日目、寝不足のせいか体調も良くなく、ほとんど全く言葉が通じない環境の中において、「早く帰りたい。」とホームシックになってしまいました。でも、周りのみんなの優しさ、明るさのおかげでそんな気持ちはいつの間にかなくなって、すごく楽しんでいる自分がいました。ホストのお父さん・お母さん方も、私たちに少しでも楽しんでもらおうといういろんなスポットに連れて行ってくれたり、家でパーティーみたいなのをやらせてくれたり、感謝の気持ちでいっぱいです。生徒のみんなも、私のつたない英語を理解しようと耳を傾けてくれたり、こんなことがしたいと言ったらやらせてくれたり、すごく優しく接してくれました。最初は長く感じていた一日もだんだん短く感じるようになり、もっとみんなとしゃべってみたい、遊んでいたいと思うようになりました。

私がこの研修で一番強く感じたものは、人の優しさと友達の大切さです。アメリカで出会った人はみんないい人ばかりでした。それはもちろん、私たちが今宮から来た留学生だということもあるのですが、その人たちの元々の優しさだと思います。廊下を歩いていけば、日本語で「こんにちは」といってくれたり、わからないと言ったことをいやな顔一つせずに何回も説明してくれたり、日本では気付かない優しさに気付かされました。この他にも、普段の生活の中で自分がどれだけの優しさに囲まれているのかアメリカに行って気付かされたことがたくさんありました。また、私は今宮のみんな、今宮の友達がいからこの研修を無事に終えることができたと思っています。もし一人で研修に行っていたら、どうしていいかわからなくても相談できる人がおらず、日本語という休憩場所もなく、精神的に辛かったと思います。わからないことを一緒に相談し、解決することができる、そんな友達がいるということがこんなにも素晴らしいことなんだと改めて思いました。これからも、そんなかけがえのない友達を大切にしていこうと思います。

今回、このアメリカ研修に携わり、私たちにこのような素晴らしい体験をさせてくださった先生方、旅

行会社の方々、ホストファミリー、キャミアックのみんな、フォレストグローブのみんな、今宮のみんな、そして家族のみんな。本当にありがとうございました。今回の体験を、いい思い出として終わらせるのではなく、これを通して学んだことや気付かされたことを今後の自分の生活に生かすとともに、次日本にアメリカ、もしくは他の外国の生徒が来たときに私と同じような気持ちになってもらえるよう私自身も本当に心優しく、友達思いの人間になるよう頑張っていきたいです。ありがとうございました。

2年 河合美幸

2週間、本当に楽しかったです。1日目から最終日まで、1分も無駄にせず過ごせたとと思います。初めてホストの方と会う時や英語で話す時、私は緊張とか不安よりは、わくわくした気持ちのほうが強く、そのおかげか積極的に行動できたと思います。日本ではそんなに積極的ではない私がこんなに積極的になれたのは、やっぱりアメリカという国や人の雰囲気のせいかと思います。現地の方はみんなすごくフレンドリーで、笑顔で、優しくて、とても喋りやすかったです。特にホストの方々には本当に親切でした。本当に感謝です。大好きです。2週間何の苦労もなく過ごすことができたのは、ホストの方の気遣いのおかげです。本当に充実した、楽しい日々でした！ありがとうございました。1年のみんな、先輩がた、2週間ありがとうございました。この10人で行って、本当によかったです。吉田先生、田中先生、2週間お世話になりました。本当にありがとうございました。そしてお母さん、お父さん、私をアメリカに行かしてくれてありがとう！本当にいい経験になりました。今宮に入って1番の思い出です。一生忘れない素敵な思い出です。この研修に関わって下さった、全ての方に感謝です。本当にありがとうございました！！

2年 松岡月乃

13日間のアメリカ生活が終わって、時間が過ぎるのが速かったな～っていう思いが一番大きいです。あっという間にシアトルとお別れ、気がつくと帰りの飛行機の中、っていうかんじでした。少しの時間も無駄にしたいくないって頑張ったけど、もっとホストの家族や学校の友達と話したらよかった、とか、あのプレゼンこうしたらよかった、とか、後悔はいっぱいあります。

でもこの2週間、いろんな経験ができました。ほんとにいろ～～～んな。アメリカの文化的な事はもちろん、相手の言ってることが分からなかったり、言いたいことが伝えられないのも、全部が全部初体験。すごく戸惑ったけど、これこそが私が求めてたもの！！と、思いっきり楽しんだ自信があります。

今回のアメリカ訪問研修で、私は本当の英語に触れ、英会話の大事なヒントみたいなものを見つけることができました。それは、日本でどれだけ勉強しても得られなかったものだと思う。本当に、この機会を与えてくれた方々に感謝しています。ありがとうございました。

2年 二神晴哉

日本では、アメリカ人は珍しいから、みんな日本人のほうから、喜んで話し掛けていきますよね。確かにアメリカの人は、目があえば誰でも **Hi!**と声をかけたりと、とてもフレンドリーなところもあります。でも友達同士の会話の中などでは、自分から話し掛けていかないことには、決して会話の中に入れてくれません。とても惨めでした。

そのとき、助けになったのが、歌やダンス、ボイスパーカッション、ギター、ピアノ、絵を描くことなどの特技でした。特に何も道具がなくて、自分の体があれば、いつでもどこでもできるダンス、歌、ボイスパーカッションは、本当に役に立ちました。

でもこの時に、英語がもっと話せれば、もっと楽しくコミュニケーションをとれたに違いありません。これを機に、本気で英会話を頑張ろうと思いました。

2年 長徳 智基

「こんなのあるよ、どう？」休憩時間の吉田先生からのこの言葉がきっかけとなり、始まったアメリカ語学研修。採用試験を経て、定員10名という限られたチケットが運良く僕のところに届きました。その瞬間、内心は楽しみというよりも戸惑いの方が強かったです。自分の英語はアメリカで通用するのか、これが一番の悩みでした。事前研修を重ねて、英語の練習をしてもいまいち自信がつかず…。それは自分の努力不足でもあり、最終的には「言葉は違えど人は人、なんとかなるさ。」と気持ちを奮いたたせていました。

アメリカで見たもの、聞いたもの、感じたものは全てが新鮮で、全てが初めてのことばかりでした。車に乗れば右ハンドル、家では靴を脱がない、そんな日本にいたときから予想していたこと全てが何故かすごく新鮮に感じました。

一番に悩んでいた「英語のコミュニケーション」も、実際にたった一人でホストファミリーの家にお世話になるという決心からか本当に『なんとかなりました』。

一緒にいる日にちが経つほど、生の英語を聴く時間が長くなるほど、相手の英語が聞き取れるようになり、また自分の意見がかたことながらも表現できるようになったと思います。

先生の何気ない一言で始まったアメリカ語学研修でしたが、この感想文を書いている今、本当に参加して良かったと心から思います。単なる英語力だけでなく、コミュニケーション能力、ちょっとした根性もこの研修で鍛えることが出来ました。

この研修に携ってくれた全ての人に感謝の気持ちを込めて、「Thank you!!!」